

令和5年 飯田市教育委員会8月定例会会議録

令和5年8月25日（金） 午後 3時00分開会

【出席委員】

教育長	熊谷 邦千加
教育長職務代理者	北澤 正光
教育委員	三浦 弥生
教育委員	上河内 陽子
教育委員	野澤 稔弘

【出席職員】

教育次長	秦野 高彦
学校教育課長	福澤 好晃
学校教育専門幹	今井 栄浩
生涯学習・スポーツ課長	伊藤 弘
文化財保護活用課長兼考古博物館長	宮下 利彦
市公民館副館長	上沼 昭彦
文化会館館長	下井 善彦
中央図書館長	瀧本 明子
美術博物館副館長兼歴史研究所副所長	牧内 功
学校教育課長補佐兼総務係長	櫻井 英人
学校教育課教育企画係長	倉田 奨

日程第1 開 会

○教育長（熊谷邦千加） それでは時間になりましたので、令和5年8月定例会を始めます。よろしくをお願いします。

日程第2 会期の決定

○教育長（熊谷邦千加） それでは日程第2、会期の決定。8月定例会の会期を本日1日とさせていただきますが、よろしいでしょうか。

（「はい」との声あり）

日程第3 会議録署名委員の指名

○教育長（熊谷邦千加） 日程第3、会議録の署名委員の指名。会議録署名委員を三浦弥生教育委員さんをお願いします。

◇教育委員（三浦弥生） はい。

○教育長（熊谷邦千加） よろしくをお願いします。

◇教育委員（三浦弥生） お願いします。

日程第4 会議録の承認

○教育長（熊谷邦千加） 日程第4、会議録の承認。7月定例会の会議録をご覧ください。

何かご意見があればお願いいたします。

（「特にありません」との声あり）

○教育長（熊谷邦千加） ないということで伺いました。これで承認いただいたということで進めてまいります。

日程第5 教育長報告事項

○教育長（熊谷邦千加） 日程第5、教育長報告事項。

それでは報告をいたします。

最初にご報告、レジユメには書いてございませんが、上河内教育委員さんが保護者の立場として大変貴重なご意見を賜っておりますけれども、任期が今年の10月8日までとなっております。その日をもってご退任ということになります。まだ10月8日までしばらくありますので、またお仕事を引き続きお願いするわけですが、議会で人事案件とし

て公表というふうになってまいりますので、この場でご報告をさせていただきます。

なお、後任には、飯田市の諏訪町にお住まいで、小学校・中学校の保護者でもある林 綾子さんを議会の人事案として提案をしまっている予定でございます。

それからもう一つ今日は、机上に木製のSDGsバッジというのを配ってございますが、ゼロカーボンシティで飯田市取り組んでおるわけですが、環境文化都市ということをご昔から大事にしているわけですが、この飯田市にある福祉事業者放課後デイの「丘のリング」の皆さんが、体験学習の場として間伐材を使ったSDGsのバッジを作成したということでございます。また、機会があるときに、ちょっと上着がないと付けられないと思いますので、付けていただいて、ゼロカーボンシティの、あるいは環境教育等に関わる立場として活用していただくとありがたいと思っております。

それでは紙面で報告をさせていただきますので、資料をご覧ください。

8月3日から6日については「いいだ人形劇フェスタ」が行われました。また、ぜひご感想等を教えていただければなというふうに思います。

久々に外国の韓国とか台湾の劇団もお呼びすることができたということでありました。大変参加された劇団員の皆さんには「開いていただいてありがとう」というようなことを私も何回もいただきました。

この準備大変だったかと思うんですけども、実行委員の皆さん、あるいは文化会館の職員の皆さん方に感謝を申し上げたいなというふうに思っております。

また、8月5日については「飯田りんごん」が、これまた昨年中止になりましたけれども、4年ぶりに行われました。コースを縮めたり参加数は70団体3,600人ということでありました。私、本部席にいましたけれども、大変大賑わいで昔を思い出すような感じをしておりました。

3つ目は、飯田女子高校の進学コースEクラスの三年生の探究活動の発表に呼んでいただいて行ってまいりました。

そこにあるように、7つのテーマで、それぞれ7名の生徒が発表したんですけども、その中には高校を紹介するムトス推進委員会の協力を得ながらやったものも入っていて、学校を売ろうって⑥番ですけども、私、感心したのは、本当にまさに探究活動だなと。一年生のときからテーマを持って、テーマが変わらない生徒もいるし、テーマが変わっている生徒もいるんですけど、失敗経験をちゃんと発表していて、そこから学ぶのは非常に大事だなというふうにも思いました。さすが高校生と思うところは、実際に企業に協力したり信大へ行って自分で授業を受けてきたりとか、そういうような積極的に外へ出て、

しかもプロや専門家に関わって事を実際に行っている。ボランティア的なことも含めて、まさにこれは探究活動だなあっていうようなふうでありました。

また、4つ目の伊勢市との交流、三遠南信交流、高校生カンボジアツアー、無事皆さん行って帰ってきていただいて何よりだったなというふうに思いました。

つい昨日は、三遠南信の中学生の交流の振り返りがオンラインで行われたんですけども、参加した生徒の中で「今の飯田市はこんなだからと思うのではなく、これからの飯田市はどうなるのかとか、私たちが今これをしたら少しは変わるかもしれないと、前向きな見方をできるようにしたい。地域のことを好きになれるような活動を行いたいと他県の人聞いて思った」。飯田市の子どもたちの特徴として最初はちょっと控えめ、だんだん慣れてくると自分に積極的になれるっていう昔から変わっていないなというところはあるんですが、他県の子どもたち、生徒と交流、また他国と交流するっていうことはやっぱりその地を知ること、その地の人を知ることとともに自分のふるさとを知り、あるいは見直し、自分自身を見直す機会になっているんだなということを改めて感じとところでございました。

報告事項につきまして何かご質問等ありましたら。

よろしいでしょうか。

(発言する者なし)

○教育長（熊谷邦千加） ありがとうございます。

日程第6 議案審議（2件）

○教育長（熊谷邦千加） それでは日程第6、議案審議は本日2件の議案についてのご審議をいただきます。

議案第53号 令和5年度飯田市就学援助費支給対象者（要保護及び準要保護児童生徒援助費補助金関係）の認定について

○教育長（熊谷邦千加） それでは議案第53号、「令和5年度飯田市就学援助費支給対象者（要保護及び準要保護児童生徒援助費補助金関係）の認定について」。

福澤学校教育課長。

◎学校教育課長（福澤好晃） それでは4ページ、議案第53号、令和5年度飯田市就学援助費支給対象者の認定についてをお願いいたします。

認定対象者につきましては、別紙でご用意させていただいたとおりでございます。それぞれ記載いたしました認定要件にて、認定をいただけますようご提案を申し上げます。

以上、よろしくお願いいたします。

○教育長（熊谷邦千加） はい、ただいま説明のありました議案第 53 号につきましてご審議をいただきます。

ご質問、ご意見がありましたらお願いします。

（「特にございません」との声あり）

○教育長（熊谷邦千加） それではご承認をいただいたということで次にいきたいと思います。

議案第 54 号 学校医の任命について

○教育長（熊谷邦千加） 議案第 54 号、「学校医の任命について」。

福澤学校教育課長。

◎学校教育課長（福澤好晃） 議案第 54 号、学校医の任命についてでございます。

5 ページをお願いいたします。

こちらは、学校保健安全衛生法第 23 条第 1 項及び同条第 3 項に基づき、竜丘小学校学校医として横田 昌氏を任命したいとするものでございます。

住所・備考欄の勤務先はご覧のとおりでございます。

提案理由は、一般社団法人飯田医師会より学校医の交代による適任者として推薦があったためでございます。

以上、よろしくお願いいたします。

○教育長（熊谷邦千加） ただいま説明のありました議案第 54 号についてご審議をいただきます。

ご質問、ご意見がありましたらお願いいたします。

（「特にありません」との声あり）

○教育長（熊谷邦千加） はい、よろしいでしょうか。

（「はい」の声あり）

○教育長（熊谷邦千加） ご承認いただいたということになります。

日程第 7 協議事項

○教育長（熊谷邦千加） では日程の第 7 「協議事項」。

本日は 2 件についてのご協議をいただきます。

（1）令和 5 年度小学校運動会・中学校文化祭等について

○教育長（熊谷邦千加） （1）として最初に、令和 5 年度小学校運動会・中学校文化祭等につ

いて。

福澤学校教育課長。

◎学校教育課長（福澤好晃） 資料No.1、6ページをご覧くださいと思います。

こちらは令和5年度小学校運動会・中学校文化祭等について、参列等の依頼があった学校についてこちらに一覧にまとめさせていただき、前回の定例教育委員会の際にも案としてお示しをさせていただいたものでございます。

それぞれの参列者につきまして、教育委員・教育長・専門幹等割り振りをお願いしてございます。参列日等につきましてはご覧いただければと思いますが、一番右の欄、挨拶に関しましては追手町小学校のみということでございますが、7ページに挨拶文の案をお作りしております。こちらをご確認いただきまして、ご意見等ございましたらお願いできればと思います。

また、三穂小学校につきましては、メッセージのみ希望ということでございますので、この挨拶文に準じたメッセージをお送りする予定であります。

よろしく願いいたします。

○教育長（熊谷邦千加） ただいま説明のありました内容につきまして、ご質問、ご意見ありましたらお願いをいたします。

（「ありません」との声あり）

○教育長（熊谷邦千加） よろしいでしょうか。

（「はい」との声あり）

○教育長（熊谷邦千加） ご都合をつけていただいてご出席をいただき、子どもたちの様子、先生方の様子等をご覧くださいいただければ大変ありがたいと思います。

（2）令和5年度小学校及び中学校教育課程研究協議会について

○教育長（熊谷邦千加） 続きまして、協議事項の（2）令和5年度小学校及び中学校教育課程研究協議会について。

今井学校教育専門幹。

◎学校教育専門幹（今井栄浩） それではお願いいたします。

8ページからになります。

令和5年度小学校及び中学校教育課程研究協議会の出席の計画になります。前回も見ましたが、小学校は10月13日、中学校は9月7日になります。日程は大丈夫でしょうか。もう一度確認をしていただければと思います。再度調整をいたします。

また、飯田市は主催者になりますので、主催者の挨拶の案をつくりましたので、見ていただきご意見等をいただければと思います。

中にあります丸や四角になっています学校名や指導主事の名前等は、それぞれ記入したものを事前にお渡ししますので、当日ご挨拶をお願いしたいと思います。

また、10 ページから日程が出ておりますが、各学校から指導案を含め、当日の案内が一週間前に教育委員会に届きますので併せてお送りします。そちらを見ていただいて確認して行っていただければと思います。

よろしくお願いいたします。

○教育長（熊谷邦千加） ただいま説明のありました教育課程研究協議会について、ご質問、ご意見ありましたらお願いをいたします。

一応、前回申し上げました三者ということで、市教委だけではなくて県教委と校長会、三者が共催ということで、ここ3年間は校内で授業をやるというような形になって、主要な先生方が直接参加するっていうような形は4年ぶりということになるかと思います。

挨拶文等についてはよろしいでしょうか。

どうぞ、野澤委員さん。

○教育委（野澤稔弘） 先日もお聞きしたかもしれないんですけど、途中で退出してもよろしかったでしょうか。

○教育長（熊谷邦千加） そうですね。ご都合に合わせていただいて結構でございます。

いろんな方が最初の開会式でご挨拶をいただくんですが、その後は研究主任等による研究発表があって、そこで今度は教室に移動して研究授業があります。その後に授業研究会っていう、その後お昼というパターンが多いかなというふうに思いますので、それでご挨拶をしていただいた後はそれぞれのご都合に合わせて結構でございます。

◇教育委員（野澤稔弘） 適当な区切りのところでよろしいですか。

○教育長（熊谷邦千加） はい、良いかと思います。

◇教育委員（野澤稔弘） 承知しました。

○教育長（熊谷邦千加） そのほかよろしいでしょうか。

（発言する者なし）

○教育長（熊谷邦千加） それでは開会式では挨拶がございますが、よろしくお願いをしたいと思います。

○教育長（熊谷邦千加） それでは日程第8、陳情審議でございますが、今回も陳情審議はございません。

日程第9 その他

○教育長（熊谷邦千加） 続いて日程第9、その他。

(1) 教育委員報告事項

○教育長（熊谷邦千加） (1)で「教育委員報告事項」。

それでは報告事項について、どの教育委員さんからでも結構ですが、報告事項ありましたらご報告いただければと思いますが、いかがでしょうか。

三浦委員さんからお願いします。

◇教育委員（三浦弥生） お願いいたします。

前回、定例会の日は発熱いたしまして欠席させていただいております。ご迷惑をおかけいたしました。

少し前のこととなりますけれども、ご報告、簡単に3点をお願いいたします。

1つは、6月24日に飯田アカデミアの第99講座「ドキュメンタリーが記録した満州移民」というものに学生10名ほどと一緒に出席をさせていただきました。

内容は、信越放送のディレクターの手塚孝典先生のお話をお聞きしまして、ドキュメンタリーを制作したそういった映像ですとか、そのときの思いですとか、そういったものもご講義いただいといた内容になります。

本当に満州、満蒙開拓団の方たちのご苦勞といったところもちろんなんですけれども、本当に戻ってこられて、その村自体が自決されて、自分も村の人たちを殺めるといったことまでされたっていう方に対して、本当にドキュメンタリーの中で「戦争とはいえ、人を殺すことが良いことだと思いますか」という、そんな質問にその帰ってこられた方が「そう言われても答えが出てこんわ」というような、そういう言葉がありまして、学生としましては「本当に戦争というものを考えさせられた」ということを言っておりました。

学生の感想などちょっと学生とのカンファレンスをしたときには、「満蒙開拓のことを学ぶ中で日本人が何かとか、政治とはどういうものなのかとか、新しい情報の見極め方だとか、そういったところまで考えさせられるっていうことは、考えていなかった」ということで、「すごい衝撃と言いますか、本当にいろいろなことを、そういった講演の中で考えた」ということで、本当に勉強させていただいたなということを感じております。

また「731部隊」につきましても、私が知りうる中で学生に話をさせてもらった中で、飯田市の平和祈念館も合わせて同じ会場でしたので、見学をさせてもらっています。

ひと通りいろいろなものを見学させていただく中で、学生の感想としましては、「本当にあったことを本当のことを伝えてくれていることへ感謝した」ということや、「ここに展示されているものは自分たちが平和を考えていく上で必要なことであって、語ってくれるそういった方たちに感謝をしたいんだ」という、そういった感想が多く聞かれまして、そういった平和祈念館というものの置いてある意味というものを、私もですが、若い世代の人たちもしっかりと意味や目的を理解できる、そういった展示になっているんじゃないかなと、そんなように感じました。

もう一つは、その次の日に行けなかったんですが、「博覧男爵を読んで田中芳男を語る」というイベントがあったかと思います。こちら学生とも「参加したいね」と言っていたんですが、日程が合わずに出られませんでした。どういう内容でどんなふう盛り上がったのか、また図書館長さんに教えていただければと思います。

もう1点最後です。いいだ人形劇フェスタのクロージングセレモニーに出席をさせていただきました。自分の体調のこともありまして、人形劇を見には行かれなかったんですが、クロージングセレモニーを見させていただいて、ちょうど上河内委員さんが一緒になりまして、上河内委員のお友達の方がいらっしゃって、上河内委員が、「お疲れ様です」暑い日でしたので、「大変だったですね」なんて声をかけられて、その方が「いえいえ、楽しかったです」という言葉が返ってきたのが、私としては本当にとっても印象的で、劇人の方ですとか、スタッフの方ですとか、たくさんの方が集まって最後のクロージングセレモニーの中で「楽しかった」という言葉、つくり上げる楽しさというものを、やはり飯田のそういった人間性・文化と言いますか、何かそういったものを感じたなっていう、そんな思いがいたしました。

以上です。

○教育長（熊谷邦千加） ありがとうございます。

ほかの教育委員さんいかがでしょうか。

上河内委員さん、お願いします。

◇教育委員（上河内陽子） 今のクロージングセレモニーに参加した件なんですけれども、とても感動しました。やっぱり最後の会で人形劇の実行委員長さんが胸を詰ませながら本当に「今回できて良かった」というふうにおっしゃっていたのを見まして、自分も本当に感動しました。

人形劇は、竹田扇之助記念館の人形劇を見せていただいたんですけども、糸操り人形、本当に素晴らしい、こういったものが地域にあって、それを伝えてくださっている方がいるということに改めて非常に感銘を受けました。

職場の方たちともしゃべりながら「子育て中に子どもたちに親子で一緒にこうやって人形劇を楽しめている。そして楽しめたことが本当に宝物だね」って言って皆さん感動していて、私も子どもたちと一緒に見てきた今までの人形劇を振り返ってみても、感謝に絶えないところです。

今年は本当に良かったなと思っています。スタッフの皆様、ありがとうございました。

○教育長（熊谷邦千加） はい、ありがとうございます。

さらにございますか。

北澤職務代理、お願いします。

◇教育長職務代理者（北澤正光） ちょっと内容が違いますけれど、8月4日に現職の校長先生方と退職した校長との懇談会というのがあって、4年ぶりに開催されるということで、しかもこの会は面白い会で、義務と高校が一堂に会して行うという会で、今回40名ぐらいの方が参加されていました。出席した一番の理由は、校長先生方の生の声が聞けるということで、今の学校についての生の声を聞いてみたいなと思って参加をさせていただきました。

その中で、小学校からは、ICT機器を活用した授業のこと。中学からは、部活動改革と地域移行に関すること。高等学校からは、総合的な探究の時間についてどんなふうに始めているかといったことのレポートがありました。

小学校は、私たちが時々見させてもらっていることではあるのですが、鼎小の校長先生が現場を代表した形で、今、小学校でICTがどんなことに課題を感じているか、どんな取組をしているかという話がありました。私たちも改めて共有しておきたい内容もあります。今年は目標とすると「子ども全員がクラウド上で課題等が発見できることを目指している」と。「同時共同編集の力をそういうことで磨いていこうとしている」というのが説明のメインでした。

個別最適な学びの一環として、特に飯田市の場合、AIドリルを導入してそれを活用していること。それからデジタル教科書に関わって、英語と外国語については、授業中の10分間はマイトライトタイムということにして、個別学習に充てていると。そんなことで、「デジタル教科書をかなり活用している」という話がありました。課題としては「ここまで進めてきた中で、教師の個人差、それから学校間の差というのが生まれてきているのも正直なところだ」と。「これからそこをどう埋めていくかが課題だ」という小学校の話でした。

それから中学校は、旭ヶ丘中の校長先生から地域移行に向けての課題ということで、6点ほどに絞って話をいただきました。

1点目は「地域移行を推進する主体者は市教委だ」と。

2点目として「クラブの運営の主体者が誰になっていくのか。つまり市教委が地域移行を推進する。クラブの運営をする主体者との間の関係がどんなふうになっていくのかというのが学校サイドで考える課題だ」ということでした。

3つ目は、「移動も含めてお金が発生、費用がどうしても発生する。受益者負担というのが原則だけれども、どの程度までの負担だったらやっていけるのかという辺りがこれからの課題である」ということ。

4点目は、大会参加や運営の仕方ということで、クラブチームの参加が今年から認められているけれども、今まで学校の教師中心で運営していた中体連大会のあり方の見直しがどうしても必要になってくる。要するにクラブチームも参加するということになってくると、学校の教員中心の運営だけではちょっと間に合わないのではないかと、
「これから中体連大会そのものが必要かどうかということも含めて考えていく必要がある」ということ。

5点目は、やっぱり指導者の確保のこと。

6点目は、指導者の処遇ということで、「全くのボランティアというわけにはいかないの、学校現場で考えると最低限3時間2,700円ぐらいは指導者にお支払いすることは必要ではないかと考えていったとき、その費用面のことをこれからどうしていったらいいか」というような話でした。

地域移行の話ばかりが先になるのですけれども、この少子化の中でスポーツ・文化活動の維持をどういうふうにしていくかといったようなこと。それから、地域移行していくことによって、学校とか自分の地元といった枠を越えた新しい人間関係が生まれて、そのスポーツや文化の新しいコミュニティができるといったような視点を持っていかないと、ただ地域移行をどうするかといったようなところだけに限定して考えていくと、それは大事なんだけれど、ちょっと見方が狭くなってしまうのではないかと、せっきくの改革の機会をより展望のある方向へ向けていきたいと思いながらお聞きしました。

それから3点目は、高校で今年から本格的に始まった探究の時間についてですけれども、飯田風越高校の場合を中心にしながら、特に普通科の探究の時間がどんなふうに取り組みれるかという話でした。風越高校の場合でいうと、グランドデザインの中に、「Think global、Act local」という名目で、地域から社会を考えるという一項目を加えて、探究の

時間を運営し始めたということです。一年時は単位を全く認めないというか0単位けれども、プレ探究の時間として、新聞記事等を個々がテーマを決めて集めて視野を広げる。二年時になったら週2時間2単位、70時間をかけて実際に探究の時間に入る。全職員が二年生5人から8人ぐらいずつを担当して、月曜日の第6・第7校時に実施をして、三年時には1単位、二年時でやった探究のまとめをして論文を作成して発表するといったような3年間の枠組みで今、始めたところだと。

その中、非常に高校側で感謝していたのは、「飯田市の公民館をはじめとして、様々な部署の皆さんに助けていただいて、地域での活動を支えてもらっていることが、非常にありがたい」と、感謝をされていました。

同様なことは、さっき教育長からもありましたけれど、7月30日に飯田女子高校の高校生が中心になって始めた「学校を売ろう」、高校生による合同高校説明会を覗きに行ってきました。大盛況で100名くらいの中学生とその保護者が見えていて、市内5校の高校生のうちから20名くらいがそれに賛同して説明の係、スタッフを買って出てくれるというような枠組みでやっていました。参加者が書いていってくれたアンケート用紙を全部見せてもらったのですが、非常に好評で、ほとんどの方がかなり高い評価をして、「良かった」という感想を残していました。

高校生が主体的に活動する様子が目の前で見られて、とても頼もしく感じたことと、それから価値観を変える時代に入っているのだなあと帰ってきました。つまり高校生たちも、ただ、今あるものの中から何か選ぶというのではなくて、なかったら自分たちの気に入るようにつくるという発想を持った若者たちが出てきているのをとても頼もしいなと思って見させてもらいました。

以上です。

○教育長（熊谷邦千加） ありがとうございます。

ほか報告事項ございますか。

よろしいでしょうか。

（発言する者なし）

○教育長（熊谷邦千加） ありがとうございます。

（2）教育次長報告事項

○教育長（熊谷邦千加） それでは続いて報告事項（2）番に入ります。「教育次長報告事項」。

◎教育次長（秦野高彦）　　ごさいません。

（3）学校教育課関係報告事項

○教育長（熊谷邦千加）　　続きまして（3）「学校教育課関係報告事項」。

今井学校教育専門幹。

◎学校教育専門幹（今井栄浩）　　それでは学校訪問のまとめについてお願いをいたします。資料の16ページになります。

5月後半から7月の前半にかけて、私、それから三尾統括、それと学校教育課の係長の3人で学校訪問をしてまいりました。そのときの様子をまとめてあります。

まず、全体ですが、どの学校もそれぞれの課題に対して前向きに取り組んでいるという状況です。また、コロナ以前のように、多くの学校行事が行われるようになってきておりました。

学力については、今年度「学力向上結いプラン」に加え、「ムトスの学び」というものを提案して、子どもたちが主体的に学ぶ授業を目指してということをお願いしておりました。授業改善に取り組もうと校長先生は取り組んでいただいています。まだまだ一斉授業も多く課題が残っているという状況がありました。

3のいじめ、不登校、特別支援、生徒指導等については、2番目のポツですが、新たに不登校をつくらないようにするためのスリンプルプログラム。これは週1回10分間程度、ペアやグループで関わり合いを楽しみながら、自尊感情やソーシャルスキルを高める活動になりますが、そういったものに取り組む中学校区が出てきました。

4の小中連携・一貫教育の関係ですが、コロナ禍の3年間は職員間の交流を控えていた中学校区も多く、まずこの4月・5月の研修会では、先生方が知り合うということを目的に研修が行われている様子がありました。また、7月・8月の夏休みは、第2回の研修会が各中学校で行われております。

職員の様子等ですが、初任者は一生懸命取り組んでいる感じが感じられました。特に今後考えなければいけないのは初任の講師について、授業力の向上に向けた取組が必要になるかなというふうに思います。

6の諸表簿については、各学校、整理されておりました。

7ですが、一番最後になります。来年度、校務支援システムが導入されますので、さらに校務の効率化ということを進めていきたいと思っております。

また、各学校の個別の報告については、後日お配りさせていただきたいと思っておりますので、

よろしく申し上げます。

以上になります。

○教育長（熊谷邦千加） ご質問等につきましては、報告事項、これ全て終わったところでいただきたいと思っておりますので、お願いをいたします。

引き続き、次の全国学調について。

今井学校教育専門幹。

◎学校教育専門幹（今井栄浩） それではよろしくお願ひいたします。

別冊子になります「全国学力・学習状況調査飯田市の「学力」結果報告（速報版）」になります。

1枚めくっていただきますと2ページのところになりますが、調査の実施状況ですが、今年度の全国学力・学習状況調査は4月18日に行われ、小学校六年生が国語と算数、中学三年生は国語・数学、それから英語が実施されましたと。

3ページの分析と今後の取組ですが、特に校長会主導委員会（教育問題検討委員会）を中心に分析を進めていきます。今年度は、特に学力調査のない学年もベネッセの総合学力調査を全ての小学校二年生から五年生、それから中学一・二年生で4月から5月にかけて実施をしました。また、リーディングスキルテストを小学校五年生全員で実施をしたので、それらの結果も含めまして検討し、改善に向けた取組になるように教育問題検討委員会、それから研究主任会等で検討していく予定です。

では、実際に結果ですが、4ページをご覧ください。今年度の学力・学習状況調査の結果ですが、小学校六年生の国語については○、算数については少し低いということで△というような結果になっております。

めくっていただいて5ページにありますが、中学校の結果については国語・数学・英語ともに△というような結果になってしまいました。このところは、課題が大きいと思っておりますので、今後の教育問題検討委員会でも議論しながら学力アップにつながるように検討していきたいと思っております。

以上であります。

○教育長（熊谷邦千加） 続いて、飯田市のこれからの学校のあり方審議会について。

倉田教育企画係長。

◎学校教育課教育企画係長（倉田 奨） よろしくお願ひいたします。

7月27日に第2回飯田市これからの学校のあり方審議会を開催しましたので、そのご報告をいたします。

17 ページ資料No.5をお開きください。第2回審議会では、保護者アンケートの結果についてと学級・学校の適正規模について、特色ある学校づくり・魅力ある教育活動についての3点につきまして、報告、説明を行った後、委員の皆様による意見交換を行いました。

資料 21 ページをお開きください。今回の審議会で個別の説明に入る前にまず全体的な視点から、国・県が示している学校教育の姿に触れておりまして、令和3年に中教審から示された「2020年代を通じて実現すべき『令和の日本型学校教育』の姿」として「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実し、「主体的・対話的で深い学び」を実現させていくこと。また、新しい国・県の教育振興基本計画が策定されており、飯田市でも国・県の教育振興基本計画を踏まえて、今後、第2次飯田市教育振興基本計画の後期の取組を策定していくということを説明しております。

続いて、保護者アンケートについてですが、これは資料としては第1回の審議会の際に配布したものを用いまして、特徴的な部分について説明をさせていただきました。

続いて、学級・学校の適正規模については、資料 25 ページをお開きください。ここでは国や県が示している学級・学校の適正規模について説明をしております、法令の位置づけと長野県の学級編成基準や教員配当基準について説明をした後、国や県が学校・学級の望ましい規模をどのように考えているかを説明しております。

さらに資料 30 ページ以降をお開きください。資料 30 ページ以降の部分で飯田市の今後の児童生徒数・学級数の減少の見込みについて改めて触れ、学校ごとの今後の学級数の見込みと国・県の考える望ましい規模に当てはめたとき、各学校がどのような位置づけになるのかを説明しております。

次に、特色ある学校づくり・魅力ある教育活動についてですが、これは資料としては第2回審議会の際に配布をした資料と同じ令和3・4年度に実施した学校運営協議会での意見交換で出された意見をまとめたものということになりますが、33 ページをお開きいただきたいと思います。中学校区ごとに出された意見の中で、特徴的な部分にアンダーラインを引いた形で今回改めて資料としてお出しをしております。

これらの説明の後に意見交換を行いまして、意見交換では学校の適正規模についての意見交換がされ、「あまりに小規模過ぎる場合、同年代の友人ができない課題がある」ことですとか、「逆に大きすぎる場合には、目が届きにくくなるのでは」という意見。「義務教育である以上、ある程度均一な水準の量と質の教育が必要で、そのためにはあまり規模のばらつきがあるのは好ましくないのでは」という意見。「適正数から考えると、それよりも小規模になってしまう地域が出るのが考えられるが、地域にとって学校が核になることも

合わせて考えると、規模が小さくても学校の魅力を出しながら学校を運営していく必要性もあるのでは」といった意見がありました。

今後の審議会についてですが、第3回の審議会は9月27日の水曜日に開催を予定しております。第3回の審議会では、飯田市の小中連携・一貫教育についての説明と坂野慎二委員、井出隆安委員のお二人からの報告を受けまして、それらについて意見交換をするといった予定です。

以上、報告とさせていただきます。よろしくお願いいたします。

(4) 生涯学習・スポーツ課関係報告事項

○教育長（熊谷邦千加） 続きまして、「生涯学習・スポーツ課関係報告事項」。

伊藤課長、続けてお願いします。

◎生涯学習・スポーツ課長（伊藤 弘） それでは資料40ページをお願いいたします。

飯田市の平和祈念館に関する取組について報告をさせていただきます。

1番にございますように、1月に委員の選任についてお認めいただきました展示活用検討委員会の第3回目の会議を7月26日に開催をしております。

第2回目から「731部隊」とはどういった部隊かっていうことで、素案を提案しながらご意見をいただきまして、第3回目の会議においても同じように意見をいただきましたが、概ね委員の皆さんからは「こんな内容で良いのではないか」ということで、そんな了解が得られましたので、いただいた意見を参考にしながら若干の修正を加えて、できるだけ早い時期に「731部隊とは」というパネルの展示をしたいと考えております。

おめくりいただいて42ページに、第3回定例会で提案をさせていただいた資料を付けさせていただきます。

なかなか元々判決文が、731部隊については、教科書裁判や国家賠償請求の裁判、2つの裁判がありましたので、そういった裁判の判決の事実の記載をする方法が良いだろうということで、提案をさせていただきましたけれども、いくつかやはり裁判文、難しい部分がありますので、頭にリード文ということで判決文から言葉を持ってくるとともに、平和資料収集委員会の皆さんがつくった原案のものも参考にながらリード文を頭に置きながら、次には判決文をとということになりますけれども、特に小学生六年生以上くらいが対象になるだろうということで、習っていない漢字にはルビを振ったり、言葉が難しい言葉については脚注を付けるなど修正を加えております。

一番の下段でございますけれども、委員の皆さんからは「見学者が自分で学び取ってい

くようなそういった展示が必要ではないか」ということで意見をいただいておりますので、自ら問を立て探究的な学習のきっかけとしてもらいたいという、こちら側の思いを下側に記載をしておりますし、右側に二次元コードを設置をしまして、さらにその判決文のもう少し詳しい内容についてはそこからアクセスしていただくとその先で見れる、そんな構成で展示をしていきたいというふうに思っております。

資料お戻りいただきまして 40 ページをお願いいたします。祈念館の活用に向けた職員の配置、2番でございますけれども、第1回目の検討委員会でもご意見をいただく中で、4月から記載の3名の方を祈念館の展示案内、また資料の整理ができる職員としてお願いをしております。

一つが見学の対応でございますけれども、平日職員が在籍しているときには9時から4時まで、また土日についても団体の皆さんに事前予約をいただければ対応するというような体制を取っております。

もう一つ、収集した資料の整理活用に向けまして、小学校の国語や中学校の社会科、そういったところへ貸し出して活用いただけるようなということで、まだまだ未活用の資料がたくさんありますので、その整理を進めております。

3番は、平和を語り継ぐための学習活動でございますが、昨年度始めた高校生や若者を対象にした講座を今年度も継続をしておりますが、8月までに4回開催をしております、合わせて52名が参加しております。昨年、高校生として参加した生徒の方が、高校卒業後もユースアドバイザーということで引き続き関わっていただくような人も出てきておまして、41 ページ右側には今年度の4回の内容等を記載しておりますので、ご覧いただければと思います。

あと(2)番が、市内に残る戦争遺跡ツアーでございます。

祈念館に展示してあるものということで、見学場所にあります4つの場所について7月30日に親子を対象とした遺跡ツアーを行っております。参加した理由や感想などは記載をしておりますので、またご覧いただければと思います。

あわせまして、明日になりますけれども、今度は一般の市民の方を対象に同じコースで開催をしていく予定でありまして、現在14名の方が申込みをいただいております。

今後の取組でございますけれども、引き続き平和学習の取組、小中学校や社会教育での活用等、そういったことを新たに配置した職員とともに進めてまいります。

それでは資料をおめくりいただき、43 ページをお願いいたします。こちらが下伊那校長会で今年度中学生を対象に実施をしたアンケートでございます。内容は、部活動のこれ

からの地域移行を踏まえて実施したものです。

おめくりいただきまして 45 ページをお願いします。真ん中の部分でありますけれども、「今年度、部活動に入っていますか」という問につきましては、82%の子どもが「入っている」ということでもありますけれども、その下にありますように、運動部への加入の割合は全国より県が低く、さらに飯田下伊那は低いというような状況でございます。

おめくりいただいたところには、それぞれの学年別と男女別で記載をしてあります。上のグラフをご覧くださいますと、特にこの飯田下伊那地区につきましては、中学生の女子の運動部の加入率が低い一方で、その下の文化部への加入率は全国や県と比べても高いというのがこの地域の特徴となっております。以降は、入っている理由等はまたご覧をいただければと思います。

それでは続きまして 49 ページをお願いいたします。一番上の 9 番の間でございますが、「近くの中学校が集まって部活動を一緒に行うことについて、どう思いますか」という問に対しましては、63.4%の生徒が「よい」というような回答となっております。その下にありますけれど、「よい」と答えた主な理由は、仲間意識や人間関係の構築やほかの学校の人と交流ができるといったように、ほかの学校の生徒と一緒にやることに対して抵抗がないというような結果となっております。

続きまして、おめくりいただいて 51 ページをお願いしたいと思います。こちらが「部活動を自分の学校の先生だけではなく、地域の指導者や各学校の先生に指導してもらうことについて、どう思いますか」と聞いた間でございますが、約 75%の生徒が「よい」という答えであります。それぞれどんな考え方をしているかというのは、一番下の囲みにありますけれども、異なる指導者や専門家からの指導を受けることは、生徒の成長や部活動のレベルアップにおいて、多くのメリットをもたらすというようなそんな考え方を持った生徒が一定数いるということが、このアンケートで確認できるということでもあります。

この 2 つ以外の間については、またお時間のあるときにご覧をいただきたいと思いますが、まずは少し心配だったのが、いろんな学校の生徒や指導者が替わるときに生徒がどうかという部分については肯定的に捉える割合が多いということでもありますので、また飯田市部活動地域移行に向けて協議会を開催しておりますが、令和 7 年度くらいには地域移行に向けてだんだん取組を進めていくということで、来年度については少し具体的な取組を試行しながら取り組んで行く予定でありますので、また次回くらいの教育委員会までは少し提案をさせていただいて、ご意見をいただければというふうに思っております。こういったアンケートの内容を踏まえながら、これからの取組を進めてまいります。

それでは次になります。資料の 55 ページをお願いいたします。

第 39 回信州飯田 60 歳以上ソフトボール大会ということで、現在実行委員会で準備を進めておりますけれども、9 月 16・17 日、2 日間で市内 4 つの会場で開催をしております。

参加チームにつきましては、41 チームということで、昨年度より若干増えておりますが、県外からのチームをお迎えしながら 2 日間の日程で開催をしておりますので、ご承知いただければと思います。

説明は以上でございます。

○教育長（熊谷邦千加） はい、ここまで内容が大変豊富なので、学校教育課関係と生涯学習・スポーツ課関係の報告事項のところで何かご質問、ご意見がありましたら一旦ここで伺いたいと思いますが、いかがでしょうか。

上河内委員さん。

◇教育委員（上河内陽子） それでは、学力・学習状況調査の結果なんですが、私も中三の娘がいるということで、親御さんからしたらいろいろ心配なことがあるかもしれません。どうしたらいいかというような、なぜ全国より平均が低いのか、それから、それをどうやっていくのかということは、今後その検討委員会というところで話をさせていただいて、その方向性が見えてくるということで理解してよろしいのでしょうか。

○教育長（熊谷邦千加） はい、今井学校教育専門幹。

◎学校教育専門幹（今井栄浩） そのように考えております。教育問題検討委員会、それから研究主任会等で話をします。まずは授業改善が一番かなというふうに、子どもたちの学力を保障していくためにどんな取組ができるかというところを検討して対応していきたいと思っています。

◇教育委員（上河内陽子） お願いいたします。

○教育長（熊谷邦千加） ありがとうございます。

さらにいかがでしょうか。

北澤職務代理。

◇教育長職務代理者（北澤正光） 3 点あります。今、上河内委員がお話されたところ、要するに学習状況調査のことに関わって、16 ページのところは今井専門幹から先ほど学校訪問のまとめのお話がありました。その四角 2 番のところの 1 つ目のポツですけど、「授業改善に取り組もうとしているけれど、一斉授業も多く課題が残っている」というこの一文に関わってです。

この部分のことと、それから学習状況調査の学力のところの結果と関連している部分が

あるのではないかと私は思っています。また、今後この分析については、主導委員会等でやっていってくださるということなのですが、算数と数学の結果などを見ると、一斉学習と個別学習の間の質という部分があるのかなと。一斉学習だけでいってしまうと、分かる子にとっては、結論から言うと暇。それから分からない子にとっては、分からないままという状況が続いてしまうのだと思います。その授業の中で個別に指導するところの時間のその中身、質がうんと大事で、特に算数・数学についてはその部分が大事かなと。つまり自力でも理解が進めていけそうな子どもさんにとっては、全員がただ同じ問題を解いているだけではなくて、行けるお子さんについては、さらにその一步上の問題に挑戦させる。片やそういうお子さんたちが一步上の問題に挑戦している間に、自力では行かないという何人かのお子さんについて、逆に教師は徹底的に個別指導をするというような、授業構造の枠組みをもうちょっと考え直していかないと、今までのままのような一斉指導でやっていくと、暇になっているお子さんと分からないままにいるお子さんはやっぱり相変わらず変わらないままというふうになってしまうので、「ムトスの学び」の話もありましたけれど、この辺は一番基本に座る部分だと思うので、学校現場でもここは本気で見直しをかけてほしい。ただ、結果を見て「分析しました。こういうふうにしましょう」程度でいってしまうと何年たってもこれは変わらない。

結局、小学校の算数のところでみると、結果でいくと4ページの11問とか13問ぐらいの辺のところ、要するに中の上のお子さんたちです。全国や県より高いところにいるお子さんたちを、少しでも14問・15問・16問の上位に押し上げるには、さっき申し上げたように、授業の枠組みの構造を変えるしかないと思うし、それから中学のところでいくと、中のところにいる5問・6問・7問の辺ですか、この辺のところにいるお子さんたちをもう一段上へ押し上げていくためにも、さっき申し上げたような授業の枠組みを考えていかないと、同じようにただ一斉指導をしているだけでは、これは変えていかれないと思います。

参考にしていただいて、主導委員会等で分析したときに学校へ提案をしていただけるとありがたいと思います。

それから2点目は、学校のあり方のところの32ページの辺の資料ですが、31ページ・32ページのところの資料で、例えば令和12年度以降の推定学級数というふうになっているのですが、前々から思っていたのは、学級数でこれから先のことを出していくても単級となっているだけで学級数は変わらない。そうすると、本当に深刻さが分かるデータにはならない。例えば32ページの下のところは、学級数のところに加えて推定生徒数、今、分かる範囲の中での子どもの数もこのところに加わらないと、本当の意味での深刻

さが伝わってこないのではないかというふうに思います。

39 ページに乳幼児の数が出ているので、この子たちがそのままそっくりその学区の学校へ進学するかどうかは分かりませんが、推定なので、ここのところの数を集計していきながら、例えば令和 12 年以降、こんな人数になっていきますというのは学校ごとに出せると思うので、それが加わると、多分審議会の委員さんたちも本当に深刻に考えていけないのではないか。学級数だけでいったら変化が見えにくい。6 学級も 5 学級もそのままだし、単級になっていくだけで、3 学級は 3 学級のまますっといくことは変わらない。そういうことを思いました。

最後は、40 ページから 42 ページにかけての平和祈念館のことです。

新聞等でも折々に特集をされてきてますし、検討委員の皆さんにも本当に真剣に議論していただいてここまで進めてきていただいた。42 ページにあるようなパネルの案で今、進んでいるというふうにお伺いをしました。公立の施設であるので、判断が難しいところの検討もあったかと思うのですが、着実にこういうふうに進めてきていただいて展示をするという、そんな流れになってきたことをありがたいというふうに思います。

今後も、それぞれのお立場やお考えでご意見があろうかというふうに思うのですが、それを常に真っ正面から受け止めて、こういうふうに進めてきてもらっていることはとてもありがたいと思います。

以上です。

○教育長（熊谷邦千加） ありがとうございます。

三浦委員さん、お願いします。

◇教育委員（三浦弥生） 2 点お願いいたします。

1 つは全国学力・学習状況調査ということでご説明をいただきました。

私も、こういったデータをいただいたときに、やはり平均点に目が行きがちですがけれども、先ほど職務代理者から話がありました。聞いていて、ああ、なるほどと思ったんですけども、やはりこのグラフは平均というよりはできる子、そしてできない子が分かる所といったところで、できる子が暇に思ってしまう、できない子が分からないとなると、できる子にとっても、できない子にとっても両方とも勉強がつまらないということになってしまうと、やはり学校がつまらない。不登校なんかにもつながっちゃうんだろかなって少し考えるところがありました。やはりできる子もできない子とも言いますか、誰にとっても学習が楽しいといった形のものを先生方にご苦労いただいて、そういった授業をつくっていただく、そういった資料の 1 つにさせていただいたらありがたいなと感じた次第です。

もう1つは、先ほど教育委員の報告事項というところでも申し上げたところではありますけれども、飯田市の平和祈念館の取組についてです。

42 ページに 731 部隊についての展示というところでちょっと見せていただいております。先ほども自分の学生と一緒に見学させてもらったときに、私のレベルでの事前の話を少しした上で見学しましたということで、やはり事前に少しでも知識があると、あそこの展示のところで足が止まって胸を打たれる。やはり平和について考えさせられる。ほかの展示物も見る中で様々な感想を持つといったところがありました。

様々な情報を自分たちで捉えてしまおうと思うと、様々な情報の見極めといったところでは、難しいところも、正しい情報も、そうでないものいろいろあるかと思います。委員会を通して、こういったものをきちんとパネルとして準備いただくといったところが、私たちがそうですけれども、若い世代の人たちが平和を考えていくところの第一歩になるのかなと思って、またありがたいなというところを感じました。

以上です。

○教育長（熊谷邦千加） ありがとうございます。

野澤委員さん、お願いします。

◇教育委員（野澤稔弘） 全国学力・学習状況調査なんですけれども、このグラフの形というのが、先ほどの協議会のとときの説明では英語に関しては求めているものが非常に高度というか、難しいところを求めているからこういう形になっちゃっているということでした。そういうふうにと考えると、裏返すと、国語はそんなに高いことを求めてないんだねとか、数学は平均的だねとかっていうふうにと考えると、何を求めているんだろうってすごく疑問に思います。

私、全然英語できるとか全然言いませんし、そんな流暢でもないし、でも、普通にビジネスで困ることはあまりないです。単語を並べるだけ。多分、英語のテストなんか受けたら0点ですよ。ですけど、仕事するにはそんなに困らないレベルなんです。

そのレベルで良いんじゃないですかっていう話なんですよね。ちょっと挨拶できて、お客さんと相手とちょっと交渉できるくらいのレベルであれば良いんじゃないかと思うんです。

ビジネスであれば、なおさら専門用語さえ知っていれば通じるっていうこともよくある話なので、なんか学者をつくりたいんでしょうね。先ほどの話を伺っていると、もうすごく偉い大学の先生のそのさらに上をいくような学者をつくりたいのかなと思ってしまいますけど、そんな必要もないような気がします。特に第二外国語、第三外国語はそういう

ふうで良いんじゃないかなと思います。

もう1点ですけど、そういう中でちょっと私のところに先日、幼児教育に関する学校を出た上越の大学生が入社のために面接に来たんですけども、幼児教育学科を出ているので、「先生になるんじゃないの」って話を聞いたら、中国の方なんです。皆さん多分ご存知だと思うんですけど、なれないですよ。日本人はそこを出ると免許もらえるけど、外国人はそこを同じカリキュラムをやってももらえないんですよ。「多分もらえない」って言うてました。「え、そうなの」って言ったら「いや、もらえないんです」って。「そうなんだ。じゃあ、どうするの」ってうちみたいなのに面接に来たんですけど。

なんかその辺どうなっているのかなと思って。もっと外国人の先生を増やしても良いんじゃないかなと実は思ってます。こういう英語の教育だとか言葉の教育って、ALTの方がいらっしゃるのそれは素晴らしいところなんですけど、もうその方が担任の先生やっても良いんじゃないですか。そんなことも、こういうのを見ていると、なんとなくテストをつくる側の恣意的なグラフの形になっているっていう感じがして、それはどうなんだろうかなって思ってしまいました。

それから、学校のあり方の審議会も、非常にこれはセンシティブな問題で、いろいろ地域感情だとか学校に対する思い入れだとかたくさんあると思います。なので、たくさん議論しなきゃいけない大きな課題かなというふうに思ってます。

ですが、いずれにしても、どこかでやっぱり学校を閉鎖したり、廃校にしたりということを決めざるを得ない時期が必ずやってくるということがありますので、なんかそういうこともある程度シミュレーションをしていく必要もあるのかなというふうに思います。そうしないと先へ進めない。これはどこかでやっぱり冷徹な判断をせざるを得ないといったところは避けて通れない話であって、この子どもたちの数の減り方のこのグラフを見ると、それはもうそんなに先延ばしはできないんじゃないかなというふうに感じている次第です。

最後に、学校訪問のまとめの中に、初任講師さんの授業力向上に向けた取組の必要性、これ非常に重要だと思います。私どもの会社でも、やっぱり新入社員が入ってきたらその新入社員に対してどうやって教育していくのって非常に大切な要素で、それがうまく機能しないと潰れるか辞めるかどちらかになってしまうというのが今の実態ですので、なかなかこのところは先生というのはやっぱりOJTが非常に要素が強いかなと思ってすごく難しい課題かなと思いますけども、何かしらやっぱりこれから考えていく必要が出てくるかなと思います。

以上です。

○教育長（熊谷邦千加） はい、ありがとうございました。

どうぞ、上河内委員。

◇教育委員（上河内陽子） すみません、2つ、言い忘れました。

平和祈念館の取組なんですけれども、いろいろ検討が進められている中で、私が本当にこれは素敵だなと思ったのは、ピースゼミというので、若者たちを対象にしてゼミの運営に関わってくださっている方がいるということです。

飯田市には、本当に豊かな資料がいっぱいあると思います。歴史の史料もそうですし、平和祈念館にも多くの資料があると思います。それは本当に日常使っていたものから手紙とか、教科書とか、いろんなものがあると思います。そういった生の資料を見ることってというのが、すごく若者にとって衝撃になるんじゃないかなと常々思っています。

というのは、私自身が地域の歴史を全く知らなかったんだけど、きっかけがあって戦争中の手紙を読んだことからそれに衝撃を受けて、非常にその時代の人たちのことを考えられるようになったという経験から、飯田も本当に豊かな資料があることを知りましたし、そういったものを実際に手に取って感じてもらえるような機会が今後また若者たちにあると良いなと。あの時代に同じように生きていた同じ人々が、こんなふうだったんだなっていうことを本当に身近に感じられるようになるんじゃないかなというふうに感じました。それがその祈念館の活動のテーマの一つになっていくと素晴らしいなと思います。

あともう1つ、ちょっと気になったのは、中学生の女子の部活加入率がすごく低いということです。全国からしたら3分の1、県からしても2分の1というのは、少し寂しいというか大変心配というか、やっぱりこの時期、体をつくってほしい時期なので、何か運動に関わってほしいと。

うちの娘も部活動には入っていないけれども、ダンスをやっています。週1回なんですけれど、週2回3回とやる子もいるんですが、見るともう女子ばかりです。バレエをちょっと習った時期もあったんですが、それも女子ばかりです。

やっぱり見てみますと、この53ページの部活動のアンケート、これは答えになるんでしょうか。ダンス部、弓道部など新しい部活動の創設希望があったということなのかなと思うんですが、そういったもしかしたらダンスなど女子が好きなスポーツっていうのがあると思うので、今後そういうのも検討に入ってくると盛り上がるかもしれないなんていうふうに感じました。

すみません、以上です。

○教育長（熊谷邦千加） ありがとうございます。

バレエは踊るバレエのこと。

◇教育委員（上河内陽子） バレエ、そうです。女子が本当多いです。

○教育長（熊谷邦千加） ありがとうございます。

それでは引き続き報告事項を続けて、もし言い逃したことがあれば最後のところでまたお話いただければと思います。

（５）文化財保護活用課関係報告事項

○教育長（熊谷邦千加） それでは（５）番、「文化財保護活用課関係報告事項」。

宮下課長。

◎文化財保護活用課長兼考古博物館長（宮下利彦） 前回の定例会でもご報告させていただきましたが、県天然記念物「川路のネズミサシ」の経過を報告させていただきます。

前回、台風シーズン前、お盆前には伐採するご説明を申し上げましたが、7月31日に伐採の工事に着手をしまして、翌日8月1日に伐採をいたしまして、現在、川路駅近くの県道沿いの土地に仮置きをしております。

伐採後に現地に残りました幹には、直径70、80センチの大きさ、根元に向かい約1.4メートルの空洞がある状態で、落ちることがないように対策をとったところでございます。

現在、伐採をした樹木や跡地の活用方法について、地域の皆さん方と検討を始めたところでございます。

報告は以上です。

○教育長（熊谷邦千加） はい。

（６）公民館関係報告事項

○教育長（熊谷邦千加） 続きまして「公民館関係報告事項」。

◎市公民館副館長（上沼昭彦） 今回、特にございませぬ。

○教育長（熊谷邦千加） はい。

（７）文化会館関係報告事項

○教育長（熊谷邦千加） （７）番に入ります。「文化会館関係報告事項」。

下井館長。お願いします。

◎文化会館館長（下井善彦） それでは資料No.9、56ページをご覧いただきたいと思います。

いいだ人形劇フェスタ 2023 でございますが、4年ぶりの通常開催ということでございま

した。教育委員の皆さんには、先ほどもお話いただきましたけれども、セレモニー等にも出席をいただいております。ありがとうございました。

資料にあります数字につきましては、ご覧いただきたいなというふうに思いますが、4年ぶりということもあり心配されたんですが、まずまずの集まりだったかなと思います。

観劇の参加劇団について、ここで令和元年というのは通常開催の年というふうにお考えいただきたいんですけども、比較して少し減ったかなというふうに思いますけれども、市内の小中学校については、まずまず例年並みの参加があったということになります。この間、中止であったり限定開催であったりっていうようなことでありますけれども、公民館を中心に小中学校の発表の機会というのを設けていただいたことがプラスになったのかなというふうに思っております。

大きな4番の「振り返り」ということでいくつか特徴的なことを書いてございます。先ほどもご紹介いただきましたけれども、今回海外としては韓国、それから台湾の劇団が来ております。

それから2つ目にありますが、中央公園でセントラルパークということで野外公演をやっておりましたが、非常に暑いということで、もう危険なレベルということでございますので、一応今回で最後というような形にさせていただいております。ただ、今までのセントラルパークの機能としては、今度別の場所でやりたいなというふうに今のところ考えております。

それからサポートスタッフにつきましても、なかなか人が集まらないという悩みがございますけれども、今回劇人に対してぜひ支援してくれということで少し声かけをしたところ、まだ数は少ないんですけども、3劇団5人の方のサポートがあったということで報告をさせていただきます。

それから次にまいります。飯田文化会館のニュースレターということで別紙で用意させていただいております。ボリュームの6ということで、新しい文化会館の検討の経過を報告するというところでございます。

開いていただいて見開きになっておりますけれども、7月7日に第7回の整備検討委員会ということでございました。これにつきましては今現在、基本理念が仮という形ですけども、大分固まってきたということで、次の段階は基本構想をつくっていくということになります。基本構想をつくるために、理念から構想へということで、委員会の皆さんにワークショップを開いていただいて検討いただきました。必要な機能とか空間っていうようなイメージでそのご意見をいただいております。時間の関係でご紹介は省略させていた

できますので、またご覧ください。

それから続いて文化の秋ということになります。コンサートのご案内を2つ用意させていただきました。

赤茶色のチラシがありますけれども、「コンサート ア・ラ・カルト」でございます。「秋の彩」ということで9月17日にコンサートを予定しております。

それからもう1つですが、「第20回萩元晴彦ホームタウンコンサート」ということで毎年やっているんですが、ちょうどここ3年くらいが中止ということでしたので4年ぶりの開催ということになるわけです。こちら、ぜひご参加いただけたらうれしく思います。

よろしく申し上げます。以上です。

○教育長（熊谷邦千加） はい、ありがとうございました。

（8）図書館関係報告事項

○教育長（熊谷邦千加） 続きまして（8）番、「図書館関係報告事項」。

瀧本館長、お願いします。

◎中央図書館長（瀧本明子） お願いします。

図書館からは、駅前図書館で行います読書推進のための行事を2件お知らせさせていただきます。

緑色のチラシをお配りしてあります。1つ目が「ビブリオバトル」ということで、本日の5時から6時までムトスぷらざのフリースペースで行う予定になっています。

ビブリオバトルというのは、中学校や高校の図書館等では時々行われておりますけれども、ほかの人に読んでもらいたいとか、紹介したいという本を持ち寄りまして、一人5分間から10分くらいの紹介を行って、参加者同士で質問をしたり感想を言い合ったりして、最後には読みたいと思った人が一番多い本をチャンプ本として決めるというものです。

本日、申込みの方が、朝の時点で8名ということでしたが、その皆さんが本を持ち寄って紹介をシェアということになっています。見学もできるようになっております。

裏面をご覧くださいまして、こちらは「積ん読書会」でございまして、「積ん読」というて読みたいと思いながら読めずに本を積んでおくこととか、途中で挫折してしまったということがあるかと思えますけれども、今回はそういう本を持ち寄って、どうして「積ん読」になってしまったかとか、こここのところで挫折してしまったということをお話し合っ、読む機会にしたいというものを行います。「積ん読本」で紹介したい本を持ち寄っていただい

た中の一部を、参加者全員で読んでみる、一人では読めなかったものをみんなで読んでみましょうという会です。

こちらが9月1日の金曜日の夕方を予定しています。一般の方も参加ができるということで、この2件につきましては、ムトスぷらざのフリースペースで行いますので、参加していない方でも周りにいる皆さんが聞いていただいて、その本を読みたいなというふうに思ってもらえるとよいと思っています。

以上です。

○教育長（熊谷邦千加） はい。

（9）美術博物館関係報告事項

○教育長（熊谷邦千加） （9）番、「美術博物館関係報告事項」。

牧内副館長、全部まとめてお願いします。

◎美術博物館副館長兼歴史研究所副所長（牧内 功） お願いします。

それでは、美術博物館から3件報告をさせていただきます。

令和5年度美術博物館の工事休館の周知につきましては、資料No.10、レジュメ 57 ページをご覧ください。

今年度の美術博物館は、教育委員会施設等総合管理計画に基づきまして、ロビー天井の耐震工事を行います。この工事に併せまして、ロビー・展示室・吹き抜け・プラネタリウム・市民ギャラリーの照明器機及び非常用灯のLED化改修工事を行うため、10月16日から来年の3月8日まで約5カ月間休館をさせていただきます。開館以来、ここまで長い休館はございませんので、多くの皆さんにご迷惑をおかけします。休館の周知に今、努めている最中でございます。

資料に記載のとおり、市民向けには年度初めに全戸と小中学校に年間スケジュールを配布したほか、ホームページへの掲載を行っております。休館が近づいてまいりましたので、9月1日の広報「いいだ」に「美術博物館工事休館について」ということでお知らせ記事として掲載し、同日号の美術博物館の事業案内ページ内にも休館の開始について掲載いたします。10月1日にも、美術博物館の事業案内ページ内に再度掲載の予定でございます。

団体で観覧のご利用いただきます学校や保育園等への周知につきましては、市内の小中学校につきましては、年度末に開催しました校長会・教頭会で説明をしております。下伊那郡内の小中学校・飯田養護学校及び市内の保育園・幼稚園・認定こども園につきましては、5月19日に学校長・園長宛に通知と年間スケジュールの送付をしております。そのほ

か、個人や機関への周知につきましては、昨年度美術博物館に使用許可等を出された方につきましては8月上旬までに個別に電話連絡等を行っております。

今後、柳田館につきましても、改修工事を計画しております、隣接する長姫神社とか美術博物館があります橋南地区のまちづくり委員会に対しましても、工事について周知してまいりたいと思っております。

続きまして9月の「びはくにゅーす」をご覧いただきたいと思えます。

ピンクの紙になりますが、9月予定しております美術博物館主催事業を掲載しております。

主なところでは、9月16日から9月22日までの一週間を「春草ウィーク」と位置づけまして、この期間は観覧料を無料としております。この期間に合わせて、プラネタリウムでは菱田春草のオリジナル番組を投影しまして、学芸員がプラネタリウムで解説を行います。同じく春草ウィークと時期が重なります9月9日から10月15日までの菱田春草の常設展示は、名品と言われます菊慈童、春秋などを展示いたします。プラネタリウムは、9月1日から秋の番組が始まる予定でございます。

裏面は、各分野の講座の案内を記載しておりますので、時間がありましたらご覧いただきたいと思えます。

続きまして、もう1つチラシをお配りしておりますが、「藤本四八記念小中高校生写真賞」についてご説明をいたします。

今回、チラシをご覧いただきたいと思えますが、この事業につきましては、平成9年から開始しました飯田市藤本四八写真文化賞に付随した小中高校生の部として平成19年に開始されまして、平成22年度に独立しまして毎年開催ということに移行しております、平成29年度から現在の藤本四八記念小中高校生写真賞としております。

今年度、夏休みが明けましたので、児童や生徒に配れるよう、飯田下伊那郡内の小・中・高校にこのチラシを配布しております、9月23日から11月23日の締切りまで2か月間作品を募集しております。締切り後12月14日に審査会を行いまして、藤本四八記念賞ほか、協賛いただいておりますしんきん大賞、あと選考委員であります水谷隼人特別賞、飯田市教育長賞、飯田市美術博物館長賞ということで、小学校・中学校・高校それぞれの部門に合わせて全部で13人の入賞者を決定しまして、審査結果を12月の下旬には連絡をする予定でございます。

先ほど申しましたとおり、今年度、美術博物館が工事休館になりますので、1月21日にムトスぷらざの3階の大会議室を使いまして表彰式を行い、前日の1月20日から2月2日

までムトスぶらぎの2階で展示し、その後2月13日から2月22日まで協賛いただいている飯田信用金庫の本店ロビーで展示で、美術博物館の工事が終了しました3月9日から3月24日まで美術博物館のロビーで展示ということで、今年は3カ所で展示をする予定でございます。

以上でございます。

○教育長（熊谷邦千加） はい。

(10) 歴史研究所関係報告事項

○教育長（熊谷邦千加） 続きまして「歴史研究所関係報告事項」。

牧内副所長、お願いします。

◎美術博物館副館長兼歴史研究所副所長（牧内 功） お配りしました歴研ニュースの8月1日号、125号をご覧くださいと思います。

表紙につきましては、今年度の地域史研究集会について記載しておりますが、先月の定例会チラシでご説明しましたので省略をさせていただきます。

開いた2ページですが、今年度7月1日から採用しました岩田、伊藤の2名の研究員の挨拶を掲載させていただいております。

3ページは、今年度設立20周年を迎えますので、リレーエッセイということで、今まで在任された職員の方のエッセイを載せております。

あと9月30日開催予定の地域史講座について掲載しております。

最終ページの上段でございますが、8月29日から10月15日まで歴史研究所と美術博物館の共催で行いますトピック展示、「飯田歌舞伎座、明治飯田を彩った芝居と相撲の殿堂」につきまして展示に関する内容と展示に合わせて10月1日に開催します文化講座について掲載しております。

下段につきましては、定例研究会、歴研ゼミの開催日時について掲載しております。

時間があるときにまたお目通しいただければと思います。

以上でございます。

○教育長（熊谷邦千加） 以上、文化財保護活用課から公民館、文化会館、図書館、美博、そして歴史研究所と報告をいただきましたが、ご質問意見等ありましたらお願いいたします。

瀧本館長。

◎中央図書館長（瀧本明子） 申し訳ありません。

先ほど三浦教育委員からの報告のところで「博覧男爵の読書会の様子を聞きたい」とい

うご依頼がありましたので、簡単にご報告をさせていただきます。

参加者は7名ほどでありましたけれども、特に田中芳男について詳しく知っていらっしゃる方もご参加になり、あまり知らない方もご参加になり、「この本を読んだことで田中芳男の一生を知ることができた」、「一部分については知っていたけれども、詳しくどういふふう生きてきたとかを知ることができた」という声が多かったです。その中で「今、当たり前前に食べられるリンゴを殖産興業ということで取り組んだのが田中芳男であるとか、博物館、動物園、図書館というものを一帯として考えるというところは、田中芳男があって今の上野公園があるんだというようなことを初めて知ってとても驚いた」というような声など、具体的にいろんな声が上がりました。

特に図書館の職員よりも資料を読み込んでいて、ほかの資料を紹介してくださった方もいましたので、非常に盛り上がりまして、予定の時間を30分ほどオーバーしながら図書館の資料を見ながら良い会が行うことができました。

ありがとうございました。

○教育長（熊谷邦千加） 三浦委員。

◇教育委員（三浦弥生） ありがとうございました。

○教育長（熊谷邦千加） その他に関わって報告事項についていかがでしょうか。

野澤委員さん。

◇教育委員（野澤稔弘） すみません、先日、三遠南信教育サミットで文化会館を使わせていただいたときに感じたんですけど、この文化会館の整備計画が始まったきっかけを教えてください。なぜ、新しい文化会館にしなきゃいけないのかということをおわかっていないなどと思ひまして、教えていただきたいんですけど。

○教育長（熊谷邦千加） 下井館長。

◎文化会館館長（下井善彦） 文化会館、今年で51歳っていうことになります。

建物の老朽化が進んでおるのもあるんですけど、耐震化を行ひまして、それで今、耐震の補強の工事をしたんですけど、それは恒久的にというよりはある意味、応急措置的なところが強いので、やはり施設のにも老朽化する。ということは逆に言うと、もう50年前の施設ですので、今のいろんな舞台と言ひますか、そういうものに対しては対応できない部分も大きくなってきていますので、建て替へたいということでございます。

◇教育委員（野澤稔弘） ありがとうございました。

この間、久しぶりに中へ入ってもったいないなと思ひたので。

それから、すごくこの図書館の書評を持ち寄るといふのはすごく良いことだと思ひてま

して、書評ってすごく難しくて、ネタバレするようなことは言っはいけないけど、でも読んでもらうようにプロモーションするという、この書評って本を読んで、それからプロモーションするという、そういう語り部っていう意味ではすごく良い勉強の素材なんじゃないかなというふうに感じていますので、何か普通の学校の場でもこういう書評なんかやっても面白いかなと思いました。

それから「積ん読書会」ですね。うちを見たんですかっていうような感じの。私、実はトイレを書斎にしまして、いつもかみさんに「ここはトイレだよ」っていうぐらい本が積んであるっていう状態で読んでるので、これはかみさんには見せられないな。

でも、すごくよく分かるんですね。途中まで読んで止めちゃった本はたくさんあって、全く1ページも進んでないような本もたくさんあるんですけど、そういうきっかけになるというのはすごく良い催しだなと思っています。ちょっと1日は参加できないですけど、楽しい機会を聞いてワクワクしました。ありがとうございました。

○教育長（熊谷邦千加） 瀧本館長。

◎中央図書館長（瀧本明子） ビブリオバトルについては、学校ではいくつかも既に取組としていているところがありまして、中学校とか高校とかがやっております。

ただ、一般の方も参加しての飯田下伊那での開催というのは今回が初めてです。

いろいろありがとうございます。

○教育長（熊谷邦千加） 三浦委員さん。

◇教育委員（三浦弥生） すみません、今、ビブリオバトル、学校でぜひと思ったらやっていたらしゃるっていうようなお話でしたので。実は短大でもコロナ前にイベントでやったことがあります、学生と、あと教員も戦うといいますが、参加させていただきまして。

どういったものなんだろうと思ったら、本人たちも周りもととても盛り上がり、本に興味を持つといったところでは本当に楽しいものなんだな、面白いものなんだなっていうことを思っておりました。

ぜひ、小中高いろいろなところで、その発達段階に合わせてやっていただけたら本に興味を持つきっかけになるのかななんて少し思いました。

以上です。

○教育長（熊谷邦千加） よろしいでしょうか。

◎中央図書館長（瀧本明子） はい、ありがとうございます。

○教育長（熊谷邦千加） さらにほかにございますか。

（発言する者なし）

○教育長（熊谷邦千加） よろしいですかね。ありがとうございました。

(11) 今後の日程について

○教育長（熊谷邦千加） それでは(11)今後の日程について。

櫻井課長補佐。

◎学校教育課長補佐兼総務係長（櫻井英人） それでは次第の3ページ(11)をお願いします。

今後の日程につきましては、記載のとおりでございます。

9月の定例会が、9月19日火曜日の3時からでございますのでお願いします。

また、次の飯田市校長会と小中学校長面談につきましては、教育長職務代理のご出席をお願いしたいと思います。

また、一番下に記載しましたが、11月8日に飯伊市町村教育委員会連絡協議会の秋季研修会が売木村で行われますので、ご予約をお願いしたいと思います。

以上です。

○教育長（熊谷邦千加） 本日予定されました議案等は、これで全てとなりますけれども、よろしいでしょうか。

（発言する者なし）

○教育長（熊谷邦千加） はい、ありがとうございます。

日程第10 閉会

○教育長（熊谷邦千加） では日程第10、閉会。

以上をもちまして8月定例会を終了といたします。

ありがとうございました。

閉 会 午後 4時36分